

2. 行政（公助）に対する総体的な提言

6項目

内訳：渡邊副委員長1項目、府野委員1項目、齋藤委員4項目

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	提言案	委員名
1	福祉政策課 地域福祉課 市民協働課	—	—	—	ボランティアや市民活動の担い手不足は深刻化しています。シニア世代は経験や知識が豊富なので、人材の発掘や地域の活動に参加し担い手の育成、増加に繋がる場の提供が不可欠だと思います。	同左	渡邊副委員長
2	福祉政策課 地域福祉課 自治振興課	—	—	—	市民アンケートの調査結果をみても、住民関係の希薄化、地域活動への関心の低下が進んでいる中、今まで活動して下さった方々が高齢化になり、次に続く世代をどのように繋げ取り込んでいくかがこれからの課題だと思います。コロナの影響もありましたが、各地域での行事が少なくなっているように思います。また、町会を退会する方も少しずつ増えてきております。若い世代や子どもたちが楽しめる行事があるとそれをきっかけに参加できるのではと思います。 地域での関わりの中で、話をしたくても場所がないと話す方もおります。これから気軽に話せる居場所作りも必要になってくると思います。町会、自治会館などを利用して誰もが話せる場所を作っていけたらと思います。	住民関係の希薄化、地域活動への関心の低下が進んでいる中、活動して下さった方々の高齢化が進み、次に続く世代をどのように繋げ取り込んでいくかがこれからの課題だと思います。コロナの影響もありましたが、各地域での行事が少なくなっているように思います。また、町会を退会する方も少しずつ増えてきております。若い世代や子どもたちが楽しめる行事があるとそれをきっかけに参加できるのではないのでしょうか。 地域での関わりの中で、話をしたくても場所がないと話す方もおります。町会、自治会館などを利用して誰もが話せる場所を作っていくことを希望します。	府野委員
3	自治振興課	—	—	—	1. 考察について 市民アンケートは、市民の福祉に対する意識や関心を知る貴重なデータです。結果の生データそのものが貴重なだけでなく、その結果から導かれる現状に対して、どの様に分析し、今後、どの様に対応していくかが、最も大事なことだと思います。目標から大きく乖離したり、予想や期待から外れる結果が出ている項目は、福祉の現場における懸案であり、その各々の結果に対する考察が必要と考えます。 私が気になった項目は下記になります。 ① P11、問10. あなたは、生きがいを持ち楽しく生活していると感じていますか？ 令和元年→令和6年で「感じている」「どちらかといえば感じている」合計が3%ダウン ② P30、問17. あなたは、地域での支えあいや助け合いに関心をお持ちですか？ 令和元年→令和6年で「非常に関心がある」「やや関心がある」合計が5.1%ダウン ③ P36、問19. あなたは、地域での活動にどの程度関心がありますか？ 令和元年→令和6年で「非常に関心がある」「やや関心がある」合計が7.7%ダウン 上記3項目は地域福祉の根幹に係る重要な項目で、全て悪化する結果になっています。考察では「原因はコロナ禍の影響が大きい」と書かれていますが、コロナ禍が過ぎれば自然に回復するのでしょうか？ コロナ禍で引きこもりになり、コロナ禍が過ぎ去った今も、引きこもりを続けている人々が多くないのでしょうか？ 一度下がってしまった悪い数値が、このまま、固定化することはないのでしょうか？ 私個人としては、これまで以上に対応策を強化することが必要ではないかと考えます。行政の方々の今後の考察と対応に期待しております。	令和6年度に実施した第4次船橋市地域福祉計画推進に係る市民アンケート調査より、生きがいを持ち楽しく生活していると感じている人の割合や地域での支えあいや助け合い、地域での活動への関心のある人の割合が令和元年度調査より減少しています。 この結果から、これまで以上に対応策を強化することが必要ではないかと考えております。地域では町会・自治会をはじめ地域活動の後継者不足の課題があります。この課題を解決するには子どもや若い子育て世帯が鍵になると考えております。 共働き世帯の増加により保護者の負担が増し、コロナ禍での活動制限から子供会離れも起きており、また、町会・自治会に加入していない世帯では参加も難しいと考えられます。 若い子育て世帯が町会・自治会活動に参加するハードルが低くなるような工夫を期待しております。	齋藤委員
4	自治振興課	—	—	—	2. ポストコロナについて コロナ禍が過ぎ去った今における、地域福祉の懸案について、私の意見を述べます。 私の薬台地区の周辺では、元々の人員確保の困難の状況下に、コロナ禍で活動が停滞し、盆踊りや祭りを中止した町会が多いです。私の所属する町会は、どうにか組織を維持して、盆踊りや祭りを開催したところ、コロナ禍の以前より多くの人々が来場して大盛況でした。 周辺の町会が活動を中止した為、周辺の町会の多くの住民が、私達の行事に押し掛けた様です。 このように「コロナ禍が過ぎ去った今」は、皆が同じように回復しているのではなく、早く回復できたものと、中々回復できないものとが混在し、両者間の格差が拡大している状況ではないのでしょうか？この格差に注目して対策を講じると、効果的に回復できるのではないのでしょうか？	元々人員確保が困難な状況下でコロナ禍により町会活動が停滞し、盆踊りや祭りを中止した町会が多くありました。その中でどうにか組織を維持して盆踊りや祭りを開催したところ、コロナ禍前より多くの人々が来場して大盛況の町会もありました。周辺の町会が活動を中止していたことから、多くの住民が押し掛けた様です。 このように「コロナ禍が過ぎ去った今」は、皆が同じように回復しているのではなく、早く回復できたものと、中々回復できないものとが混在し、両者間の差がある状況ではないのでしょうか。 この差に注目して分析・対策を講じることで、町会活動を回復できないのでしょうか。	齋藤委員

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	提言案	委員名
5	地域福祉課 市民協働課	—	—	—	<p>3. 「60代前半では地域活動への関心がない人の割合が低い」について 私は、退職前は、地域福祉に全く関心が無く参加もしていませんでした。定年退職して、町会や民生委員やボランティアの活動に興味を持ち、今は私の生きがいのひとつになっています。 企業の協力も得て、定年退職者を対象にしたボランティア活動のセミナーやパンフレットを展開してはいかがでしょうか？</p>	<p>第4次船橋市地域福祉計画推進に係る市民アンケート調査より、60代前半での地域活動への関心がない人の割合の低さが見受けられました。 退職前は、地域福祉に全く関心が無く地域活動に参加していませんでしたが、定年退職して、町会や民生委員やボランティア活動に興味を持ち、今は生きがいのひとつになっている方もおられます。 企業の協力も得て、定年退職者を対象にしたボランティア活動のセミナーやパンフレットを展開してはいかがでしょうか。</p>	齋藤委員
6	危機管理課	—	—	—	<p>4. 「20～30代の地域活動への関心の低さ」について 若い子育て世帯に対して、子供と親と一緒に参加する行事を行い、地域活動に関心を持ってもらうのは、とても良い取組みだと思います。例えば、学校・町会・消防団・社協等が協賛して防災時の給食・就寝訓練を兼ねたキャンプ体験会を行い、参加者が地域の色々な活動を行う人々と顔を合わせ知り合う機会とし、少しずつ地域活動へと育てていくのが良いと思います。</p>	<p>第4次船橋市地域福祉計画推進に係る市民アンケート調査より、20～30代の地域活動への関心の低さが見受けられました。 若い子育て世帯に対して、子どもと親と一緒に参加する行事を行い、地域活動に関心を持ってもらうのは、とても良い取組みだと思います。例えば、学校・町会・消防団・社協等が協賛して防災時の給食・就寝訓練を兼ねたキャンプ体験会を行い、参加者が地域の色々な活動を行う人々と顔を合わせ知り合う機会とし、少しずつ地域活動へと育てていくのが良いと思います。</p>	齋藤委員